



Cisco IOS XE Bengaluru 17.6.x (Catalyst 9600 スイッチ) ソフトウェア コンフィギュレーションガイド

初版：2021年7月31日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255 (フリーコール、携帯・PHS含む)

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

THE SPECIFICATIONS AND INFORMATION REGARDING THE PRODUCTS IN THIS MANUAL ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. ALL STATEMENTS, INFORMATION, AND RECOMMENDATIONS IN THIS MANUAL ARE BELIEVED TO BE ACCURATE BUT ARE PRESENTED WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED. USERS MUST TAKE FULL RESPONSIBILITY FOR THEIR APPLICATION OF ANY PRODUCTS.

THE SOFTWARE LICENSE AND LIMITED WARRANTY FOR THE ACCOMPANYING PRODUCT ARE SET FORTH IN THE INFORMATION PACKET THAT SHIPPED WITH THE PRODUCT AND ARE INCORPORATED HEREIN BY THIS REFERENCE. IF YOU ARE UNABLE TO LOCATE THE SOFTWARE LICENSE OR LIMITED WARRANTY, CONTACT YOUR CISCO REPRESENTATIVE FOR A COPY.

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

NOTWITHSTANDING ANY OTHER WARRANTY HEREIN, ALL DOCUMENT FILES AND SOFTWARE OF THESE SUPPLIERS ARE PROVIDED "AS IS" WITH ALL FAULTS. CISCO AND THE ABOVE-NAMED SUPPLIERS DISCLAIM ALL WARRANTIES, EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THOSE OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NON-INFRINGEMENT OR ARISING FROM A COURSE OF DEALING, USAGE, OR TRADE PRACTICE.

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

All printed copies and duplicate soft copies of this document are considered uncontrolled. See the current online version for the latest version.

Cisco has more than 200 offices worldwide. Addresses and phone numbers are listed on the Cisco website at www.cisco.com/go/offices.

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/trademarks.html>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

© 2021 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



はじめに

ここでは、このマニュアルの表記法、および他資料の入手方法について説明します。また、シスコ製品のマニュアルの最新情報についても説明します。



(注) この製品のマニュアルセットは、偏向のない言語を使用するように配慮されています。このドキュメントセットでの偏向のない言語とは、年齢、障害、性別、人種的アイデンティティ、民族的アイデンティティ、性的指向、社会経済的地位、およびインターセクショナリティに基づく差別を意味しない言語として定義されています。製品ソフトウェアのユーザインターフェイスにハードコードされている言語、基準ドキュメントに基づいて使用されている言語、または参照されているサードパーティ製品で使用されている言語によりドキュメントに例外が存在する場合があります。

- [表記法](#) (iii ページ)
- [関連資料](#) (v ページ)
- [マニュアルの入手方法およびテクニカルサポート](#) (v ページ)

表記法

このマニュアルでは、以下の表記法を使用しています。

表記法	説明
^ または Ctrl	^ 記号と Ctrl は両方ともキーボードの Control (Ctrl) キーを表します。たとえば、^D または Ctrl+D というキーの組み合わせは、Ctrl キーを押しながら D キーを押すことを意味します (ここではキーを大文字で表記していますが、小文字で入力してもかまいません)。
太字	コマンド、キーワード、およびユーザーが入力するテキストは太字で記載されます。
<i>italic</i> フォント	文書のタイトル、新規用語、強調する用語、およびユーザが値を指定する引数は、イタリック体で示しています。

表記法	説明
Courier フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、courier フォントで示しています。
太字の courier フォント	太字の Courier フォントは、ユーザが入力しなければならないテキストを示します。
[x]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
...	構文要素の後の省略記号（3つの連続する太字ではないピリオドでスペースを含まない）は、その要素を繰り返すことができることを示します。
	パイプと呼ばれる縦棒は、一連のキーワードまたは引数の選択肢であることを示します。
[x y]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
{x y}	どれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x {y z}]	角かっこまたは波かっこが入れ子になっている箇所は、任意または必須の要素内の任意または必須の選択肢であることを表します。角かっこ内の波かっこと縦棒は、省略可能な要素内で選択すべき必須の要素を示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めてstring とみなされます。
<>	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。
[]	システムプロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!, #	コードの先頭に感嘆符 (!) またはポンド記号 (#) がある場合には、コメント行であることを示します。

読者への警告の表記法

このマニュアルでは、読者への警告に次の表記法を使用しています。



(注) 「注釈」です。役立つ情報やこのマニュアルに記載されていない参照資料を紹介しています。



ヒント 「問題解決に役立つ情報」です。



注意 「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。



ワンポイントアドバイス

時間を節約する方法です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。



警告 安全上の重要な注意事項

この警告マークは「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。各警告の最後に記載されているステートメント番号を基に、装置に付属の安全についての警告を参照してください。ステートメント 1071

これらの注意事項を保管しておいてください。

関連資料



(注) をインストールまたはアップグレードする前に、 のリリースノートを参照してください。



(注) スイッチの設置またはアップグレードを実施する前に、スイッチのリリースノートを参照してください。

• 次の URL にある Cisco Catalyst 9600 シリーズ スイッチのマニュアル :

<https://www.cisco.com/c/en/us/products/switches/catalyst-9600-series-switches/index.html>

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカルサポート、その他の有用な情報について、毎月更新される『更新情報』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『更新情報』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。



第 1 章

目次

- BGP EVPN VXLAN
- Bonjour 向け Cisco DNA サービス
- Cisco TrustSec
- ハイ アベイラビリティ
- インターフェイスおよびハードウェアコンポーネント
- IP アドレッシングサービス
- IP マルチキャストルーティング
- IP ルーティング
- レイヤ 2
- マルチプロトコル ラベル スイッチング
- ネットワーク管理
- プログラマビリティ
- Quality of Service
- セキュリティ
- システム管理
- VLAN



第 2 章

Web ユーザー インターフェイスを使用したスイッチの設定



(注) マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。

- [デイ 0 WebUI 設定の概要 \(3 ページ\)](#)
- [Cisco DNA Center クラウド導入準備デイ 0 ウィザード \(4 ページ\)](#)
- [クラシックデイ 0 ウィザード \(7 ページ\)](#)

デイ 0 WebUI 設定の概要

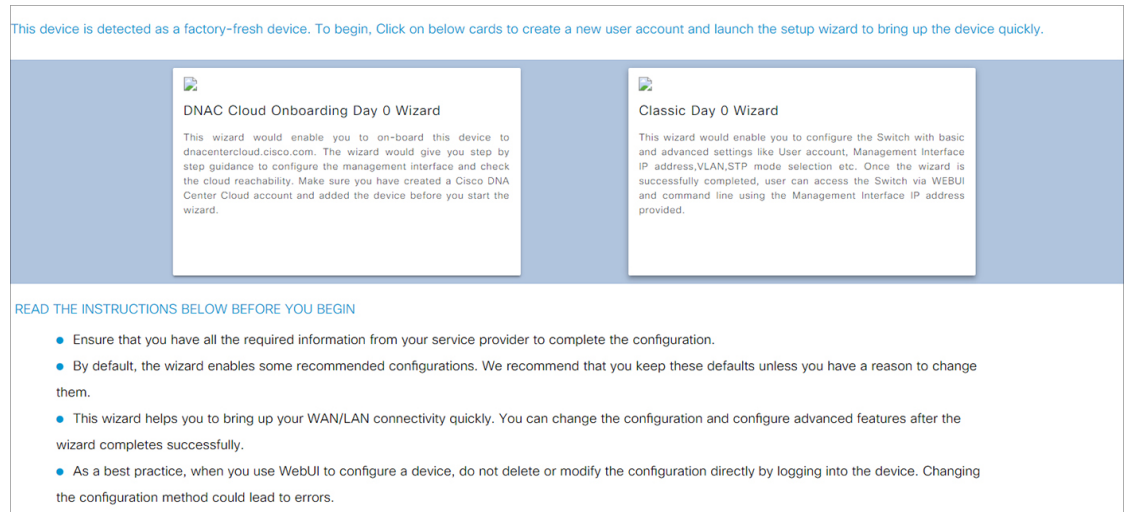
ハードウェアの取り付けが完了したら、トラフィックがネットワークを通過するのに必要な構成を使用してスイッチを設定する必要があります。新しいデバイスを使用する最初の日には、さまざまなタスクを実行することにより、デバイスがオンライン状態かつ到達可能で、簡単に設定されることを確認できます。

Web ユーザー インターフェイス (WebUI) は、組み込み GUI ベースのデバイス管理ツールです。デバイスをプロビジョニングしたり、デバイスの導入および管理性を簡素化したり、ユーザー エクスペリエンスを向上したりする機能を提供します。WebUI を使用すれば、CLI の専門知識がなくても、設定を構築し、デバイスのモニタリングとトラブルシューティングを行うことができます。

WebUI を使用してスイッチを設定するには、2 つの方法があります。

- [Cisco DNA Center クラウド導入準備デイ 0 ウィザード](#)
- [クラシックデイ 0 ウィザード](#)

図 1: WebUI ディ 0 ウィザード



Cisco DNA Center クラウド導入準備ディ 0 ウィザード

このウィザードを使用して、管理インターフェイスを設定し、クラウド経由で到達可能かどうかを確認します。



(注) このウィザードに進む前に、Cisco DNA Center クラウドアカウントにデバイスを追加する必要があります。

アカウント設定の構成

デバイスで実行する最初のタスクは、ユーザー名とパスワードの設定です。通常、ネットワーク管理者はデバイスへのアクセスを制御し、権限がないユーザーがネットワーク設定を参照したり、設定を操作したりすることを防止します。

ステップ 1 デフォルトのユーザー名 **webui** とパスワード **cisco** を使用してログオンします。

ステップ 2 最大 25 文字の英数字のパスワードを設定します。

設定したユーザー名とパスワードの組み合わせにより、特権 15 のアクセス権が与えられます。ストリングを数字で始めることはできません。大文字と小文字を区別し、スペースを使用できますが、先行スペースは無視されます。

ステップ 3 [Device ID Settings] セクションで、[Device Name] フィールドにネットワーク内のデバイスを識別する一意の名前を入力します。

ステップ 4 [Time & Device Mode] フィールドに、デバイスの日付と時刻を手動で入力します。デバイスを Network Time Protocol (NTP) クロックソースなどの外部タイミングメカニズムと同期するには、[NTP Server] フィールドに IP アドレスを入力します。

図 2: Account Settings

The screenshot shows the 'Configuration Setup Wizard' interface. At the top, there are four main sections: ACCOUNT SETTINGS, BASIC SETTINGS, TEST CONNECTIVITY, and SUMMARY. The 'ACCOUNT SETTINGS' section is active and contains the following fields:

- Login Name*: testuser
- Login User Password*:
- Confirm Login User Password*: (empty)
- Device ID Settings:
 - Device Name*: testdevice
 - NTP Server: x.x.x.x
 - Date & Time Mode: NTP Time (dropdown menu)

On the right side, there is a 'HELP AND TIPS' section with the following text:

Establish a new Username and Password for the Device. Please remember it for next Login.
Establish a new password for the privileged command level.
Device name is an identification that is given to the physical hardware device.
Network Time Protocol (NTP) is a networking protocol for clock synchronization between computer systems over packet-switched, variable-latency data networks. Enter the IP address of the NTP server.
If manual time is set then the difference in time will be adjusted at the time of configuring the device.

At the bottom, there are navigation buttons: '< Welcome Page' and 'Basic Settings >'.

基本デバイスの設定

[Basic Settings] ページで、次の情報を設定します。

ステップ 1 [Device Management Settings] セクションで、静的アドレスまたは DHCP アドレスを使用して管理インターフェイスに IP アドレスを割り当てます。

ステップ 2 [Static] を選択した場合は、次の手順を実行します。

- [Associate VLAN Interface] ドロップダウンリストで、インターフェイスに関連付ける VLAN ID を入力します。
- 割り当てる IP アドレスが、入力したサブネットマスクの一部であることを確認してください。
- デフォルトゲートウェイの IP アドレスを入力します (オプション)。
- DNS サーバーのアドレスを入力します。

図 3: 基本設定 - 静的構成

The screenshot shows the 'Configuration Setup Wizard' interface. The progress bar indicates the 'BASIC SETTINGS' step is active. The 'Device Management Settings' section includes the following fields:

- IP Address: Radio buttons for Static and DHCP.
- VLAN ID*: Input field containing the value '2'.
- IP Address*: Input field containing 'x.x.x.x'.
- Subnet Mask*: Input field containing 'x.x.x.x'.
- Default Gateway (optional): Input field containing 'x.x.x.x (optional)'.
- Associate VLAN Interface: Dropdown menu showing 'GigabitEthernet1/0/2'.
- DNS Server: Input field containing 'x.x.x.x'.

At the bottom, there are two buttons: '< Create New Account' and 'Test Connectivity >'. A 'HELP AND TIPS' sidebar on the right provides instructions for enabling Telnet, SSH, and VTP transparent mode.

ステップ 3 [DHCP] を選択した場合は、次の手順を実行します。

- a) [VLAN ID] フィールドに値を入力します。
VLAN ID は 1 以外の値にする必要があります。
- b) 割り当てる IP アドレスが、入力したサブネットマスクの一部であることを確認してください。
- c) デフォルトゲートウェイの IP アドレスを入力します (オプション)。
- d) DNS サーバーのアドレスを入力します。

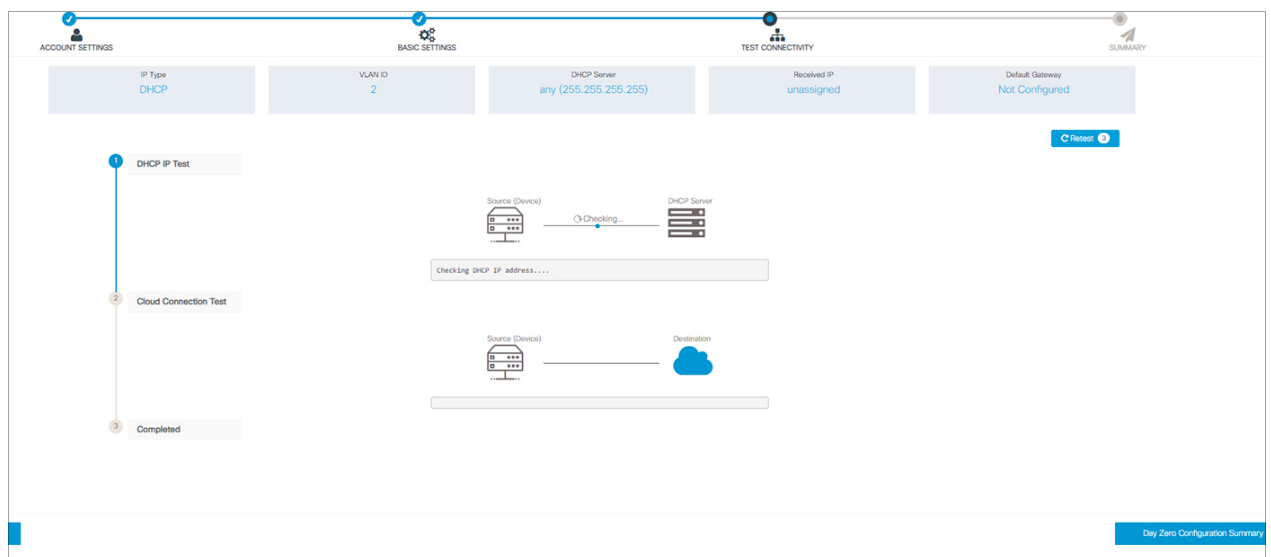
図 4: 基本設定 - DHCP 構成

This screenshot is identical to Figure 3, but the radio button for DHCP is selected instead of Static. The rest of the form fields and the 'HELP AND TIPS' sidebar remain the same.

接続性のテストの設定

- ステップ 1** デバイス間で Cisco DNAC クラウドへの接続が確立されていることを確認するには、[Test Connectivity/Retest] ボタンを使用します。
- ステップ 2** 接続が確立されていない場合は、[Retest] ボタンをクリックします。
- それでも接続が失敗する場合は、前の [Basic Settings] ページに移動し、設定を変更して、[接続のテスト] を再度確認してください。
- ステップ 3** 接続が確立されたら、[Day Zero Configuration Summary] に移動して設定を保存します。

図 5: Test Connectivity



- ステップ 4** 設定が正常に適用され、デバイスが Cisco DNAC クラウドにリダイレクトされていることを確認します。

次のタスク

リダイレクションが成功しない場合は、デバイスが Cisco PnP 接続 (devicehelper) のリダイレクション コントローラ プロファイルに関連付けられていることを確認します。

クラシックディ 0 ウィザード

このウィザードを使用して、基本設定と詳細設定でデバイスを設定します。完了すると、管理インターフェイスの IP アドレスを使用して WebUI からデバイスにアクセスできます。

スイッチへの接続

始める前に

クライアントで DHCP クライアント識別子をセットアップして、スイッチから IP アドレスを取得し、Day 0 ログイン情報で認証できるようにします。

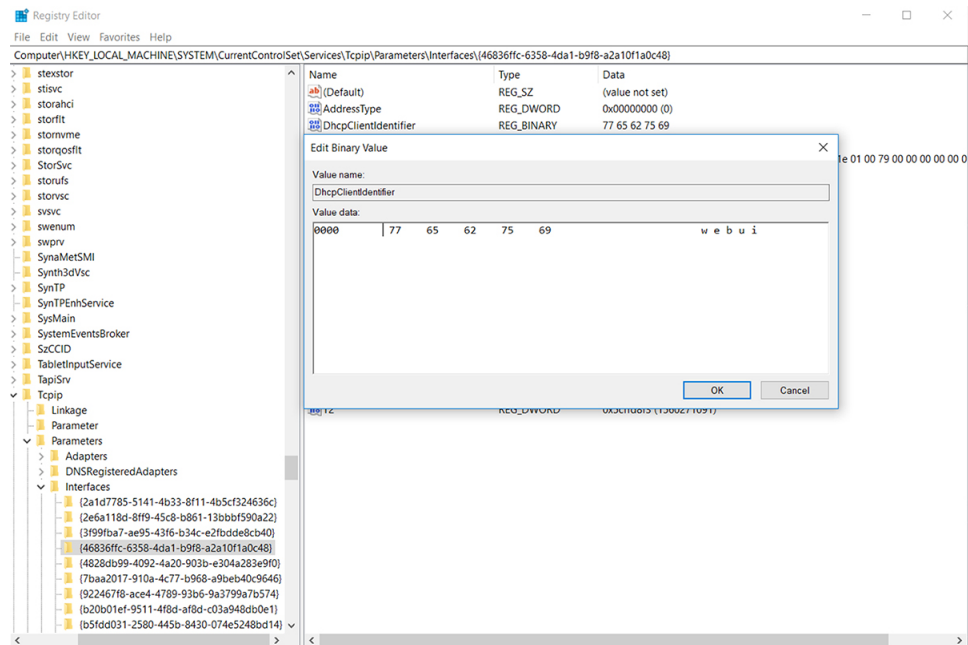
Windows クライアントでの DHCP クライアント識別子のセットアップ

1. タスクバーの Windows 検索ボックスに **regedit** と入力し、**Enter** キーを押します。
2. [User Account Control] のメッセージが表示されたら、[Yes] をクリックしてレジストリエディタを開きます。
3. 次の場所に移動します。

Computer\HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Tcpip\Parameters\Interfaces (イーサネットインターフェイスのグローバル固有識別子 (GUID) を見つけてください)

4. **webui** のデータ **77 65 62 75 69** を使用して新しい REG_BINARY の **DhcpClientIdentifier** を追加します。値は手動で入力する必要があります。

図 6: Windows での DHCP クライアント識別子のセットアップ

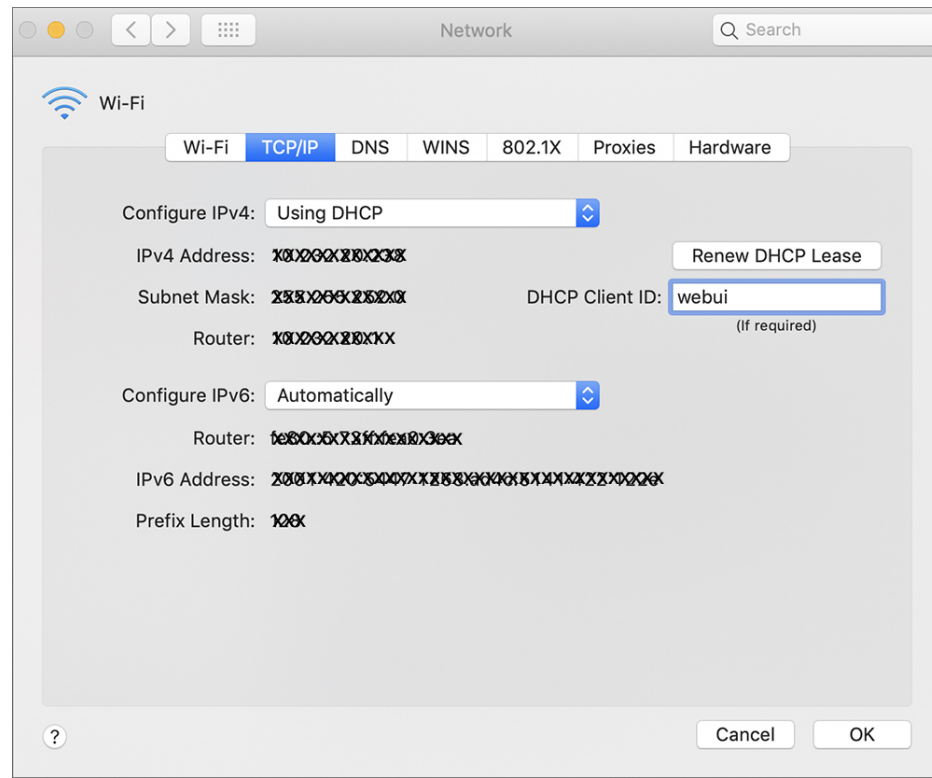


5. PC を再起動して設定を有効にします。

Mac クライアントでの DHCP クライアント識別子のセットアップ

1. [System Preferences] > [Network] > [Advanced] > [TCP] > DHCP Client ID] に移動し、**webui** と入力します。

図 7: Mac での DHCP クライアント識別子のセットアップ

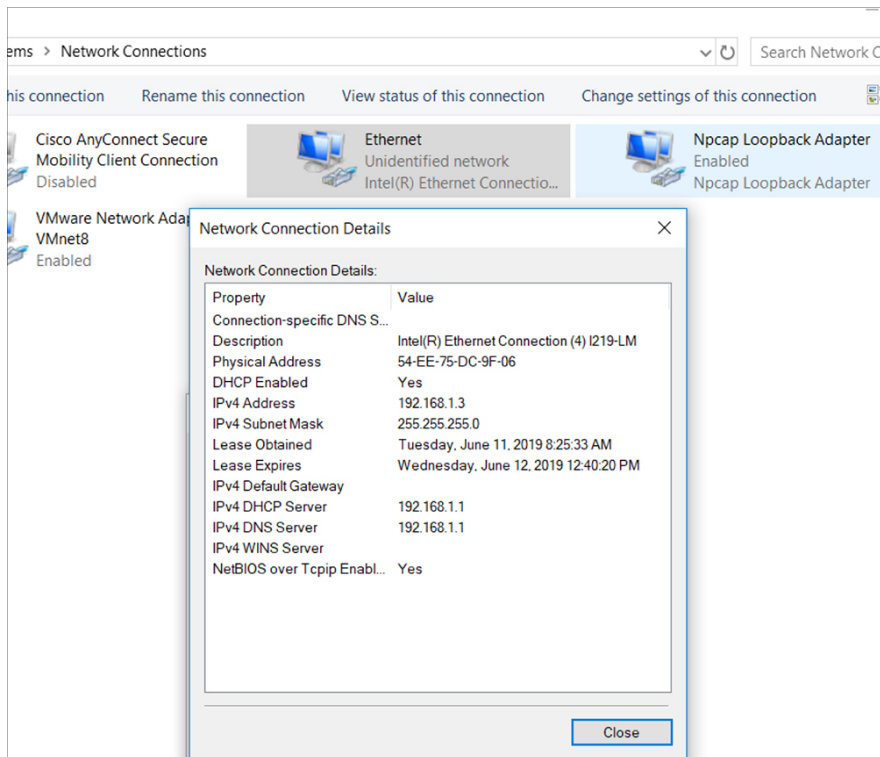


2. [OK] をクリックして変更を保存します。

ブートアップスクリプトにより構成ウィザードが実行され、次の基本設定の入力を求められます (**Would you like to enter the initial configuration dialog? [yes/no]:**)。Web UI を使用して Day 0 設定を行うには、応答を入力しないでください。代わりに次のタスクを実行します。

- ステップ 1 スイッチに何らかのデバイスが接続されていないことを確認します
- ステップ 2 イーサネットケーブルの一方の端をアクティブなスーパーバイザのダウンリンク（非管理）ポートの 1 つに接続し、もう一方の端をホスト（PC/Mac）に接続します。
- ステップ 3 PC/Mac を DHCP クライアントとして設定し、スイッチの IP アドレスを自動的に取得します。192.168.1.x/24 の範囲内の IP アドレスを取得する必要があります。

図 8: IP アドレスの取得



最大で3分かかります。デバイスの端子を使用する前に、Web UI から Day 0 セットアップを完了させる必要があります。

ステップ 4 PC 上で Web ブラウザを起動し、デバイスの IP アドレス (<https://192.168.1.1>) をアドレスバーに入力します。

ステップ 5 Day 0 の [username] に **webui** と入力し、[password] に **cisco** を入力します。

次のタスク

ユーザー アカウントを作成します。

ユーザー アカウントの作成

デバイスで実行する最初のタスクは、ユーザー名とパスワードの設定です。通常、ネットワーク管理者はデバイスへのアクセスを制御し、権限がないユーザーがネットワーク設定を参照したり、設定を操作したりすることを防止します。

ステップ 1 デバイスに付属のデフォルト ユーザー名とパスワードを使用してログオンします。

- ステップ 2** 最大25文字の英数字のパスワードを設定します。設定したユーザー名とパスワードの組み合わせにより、特権15のアクセス権が与えられます。ストリングを数字で始めることはできません。大文字と小文字を区別し、スペースを使用できますが、先行スペースは無視されます。

図 9: アカウントの作成

The screenshot displays the 'Configuration Setup Wizard' interface. The top navigation bar includes the Cisco logo and the title 'Configuration Setup Wizard'. Below this is a progress indicator with six steps: 'CREATE ACCOUNT', 'BASIC SETTINGS', 'SITE PROFILE', 'SWITCH WIDE SETTINGS', 'PORT SETTINGS', and 'SUMMARY'. The 'CREATE ACCOUNT' step is currently selected and highlighted. The main content area is divided into two columns. The left column contains three text input fields labeled 'Login Name', 'Password', and 'Confirm password'. The right column is titled 'Hardware and Software details of the device' and contains five sections, each with a dropdown menu icon: 'Platform Type', 'IOS Installed', 'Serial Number', 'Modules', and 'License Installed'. At the bottom of the page, there are two buttons: 'Create New Account' and 'Basic Device Settings >'.

セットアップオプションの選択

サイト プロファイルに基づいてデバイスを設定するには [Wired Network] を選択して、スイッチ全体の設定を続行します。それ以外の場合は、次の手順に進み、デバイスの基本設定のみを行います。

基本デバイスの設定

[Basic Device Settings] ページで、次の情報を設定します。

- ステップ 1** [Device ID and Location Settings] セクションで、ネットワーク内のデバイスを識別する一意の名前を入力します。
- ステップ 2** デバイスの日付と時刻の設定を選択します。デバイスを NTP クロック ソースなどの有効な外部タイミングメカニズムと同期させるには、[Automatic] を選択するか、[Manual] を選択して自分で設定します。

図 10 : [Basic Device Settings] > [Device ID and Location Settings]

ステップ 3 [Device Management Settings] セクションで、管理インターフェイスに IP アドレスを割り当てます。割り当てる IP アドレスが、入力したサブネットマスクの一部であることを確認してください。

ステップ 4 デフォルト ゲートウェイの IP アドレスを入力します (オプション)。

ステップ 5 Telnet によるデバイスへのアクセスを有効にするには、[Telnet] のチェック ボックスをオンにします。

ステップ 6 セキュア シェル (SSH) によるデバイスへのセキュアなリモート アクセスを有効にするには、[SSH] のチェック ボックスをオンにします。

ステップ 7 [VTP transparent mode] のチェック ボックスをオンにし、デバイスによる VTP への参加を無効化します。

前の手順で [Wired Network] を選択していない場合、次の画面に進み、[Day 0 Config Summary] 画面の設定を確認し、[Finish] をクリックします。サイトプロファイルに基づいてデバイスを自動的に設定するには、[Setup Options] をクリックして [Wired Network] を選択します。

図 11 : [Basic Device Settings] > [Device Management Settings]

サイト プロファイルに基づいたデバイスの設定

より簡単に設定作業を行い時間を節約するには、ネットワークでデバイスが設置および管理される場所に基づいて、サイトプロファイルを選択します。選択したサイトプロファイルに基づき、シスコのベストプラクティスに従ってデバイスが自動的に設定されます。該当する詳細設定画面から、このデフォルト設定を簡単に変更できます。

クイック セットアップの一環としてサイト プロファイルを選択すると、企業のビジネス ニーズに基づいてデバイスを設定できます。たとえば、デバイスをアクセススイッチとして使用して、ネットワーク上のクライアントノードとエンドポイントを接続したり、ディストリビューションスイッチとして使用して、サブネットと VLAN の間でパケットをルーティングしたりすることができます。

表 1: 各サイトプロファイル（ディストリビューションスイッチ）と共に読み込まれるデフォルト設定

設定	シングル ディストリビューションスイッチ (シングルダウンリンク)	シングル ディストリビューションスイッチ (シングルポート チャンネルダウンリンク)	冗長ディストリビューションスイッチ (ポートチャンネルピアおよび ダウンリンク)
ホスト名	クイックセットアップの一部として指定したホスト名またはデバイス名	クイックセットアップの一部として指定したホスト名またはデバイス名	クイックセットアップの一部として指定したホスト名またはデバイス名
スパニング ツリー モード	RPVST+	RPVST+	RPVST+
VTP	モードトランスペアレント	モードトランスペアレント	モードトランスペアレント
UDLD	イネーブル	イネーブル	イネーブル
エラーディセーブル回復	リカバリモードを自動に設定	リカバリモードを自動に設定	リカバリモードを自動に設定
ポートチャンネルロード バランス	送信元/宛先 IP	送信元/宛先 IP	送信元/宛先 IP
SSH	バージョン 2	バージョン 2	バージョン 2
SCP	イネーブル	イネーブル	イネーブル
スイッチへの VTY ア クセス	イネーブル	イネーブル	イネーブル
サービスタイムスタン プ	イネーブル	イネーブル	イネーブル

設定	シングル ディストリビューションスイッチ (シングルダウンリンク)	シングル ディストリビューションスイッチ (シングルポートチャネルダウンリンク)	冗長ディストリビューションスイッチ (ポートチャネルピアおよびダウンリンク)
VLAN	次の VLAN が作成されます。 <ul style="list-style-type: none"> • Default VLAN • データ VLAN • 音声 VLAN • Management VLAN 	次の VLAN が作成されます。 <ul style="list-style-type: none"> • Default VLAN • データ VLAN • 音声 VLAN • Management VLAN 	次の VLAN が作成されます。 <ul style="list-style-type: none"> • Default VLAN • データ VLAN • 音声 VLAN • Management VLAN
管理インターフェイス	クイックセットアップに基づいて管理ポートに設定されたレイヤ 3 設定	クイックセットアップに基づいて管理ポートに設定されたレイヤ 3 設定	クイックセットアップに基づいて管理ポートに設定されたレイヤ 3 設定
QoS ポリシー	定義されたディストリビューション用 QoS ポリシー	定義されたディストリビューション用 QoS ポリシー	定義されたディストリビューション用 QoS ポリシー
アップリンクインターフェイス	選択したアップリンクポートは、他のディストリビューションスイッチまたはコアスイッチに接続	選択したアップリンクポートは、他のディストリビューションスイッチまたはコアスイッチに接続	選択したアップリンクポートは、他のディストリビューションスイッチまたはコアスイッチに接続
ダウンリンクインターフェイス	トランクモードで設定されたアクセススイッチへのダウンリンク接続	トランクモードで設定されたアクセススイッチへのダウンリンク接続	トランクモードで設定されたアクセススイッチへのダウンリンク接続
Port-channel	Port-channel からコアまで作成済み	Port-channel からコアまたはアクセスまで作成済み	作成済みのコアまたはディストリビューションへの Port-channel

図 12: [Site Profile] > [Distribution Switches]

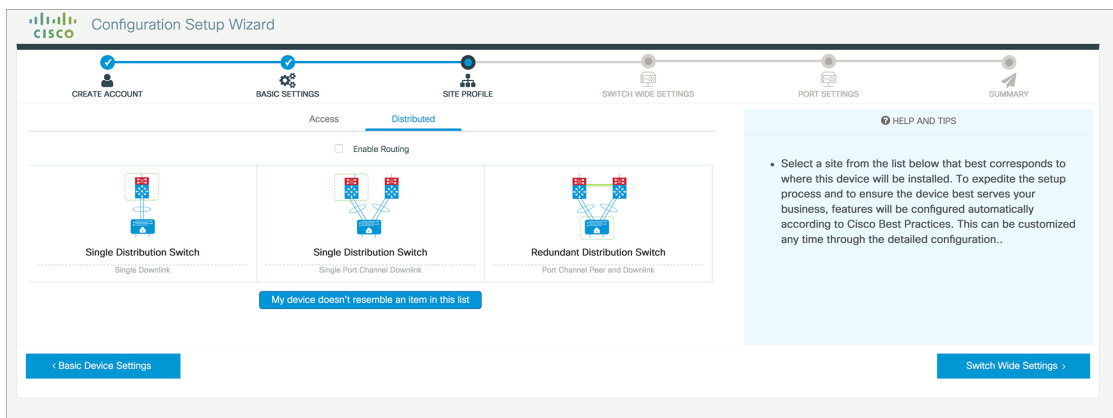


図 13: [Site Profile] > [Distribution Switches] (ルーテッドアクセスの場合)

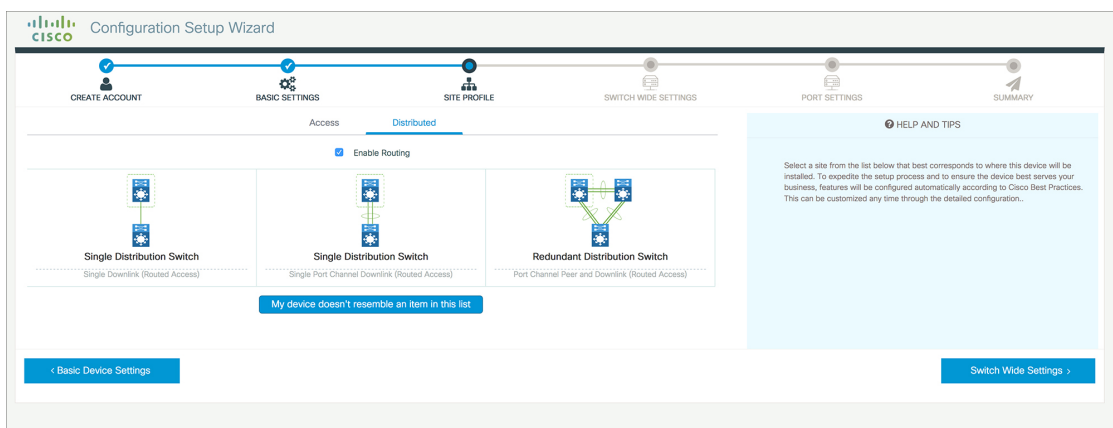
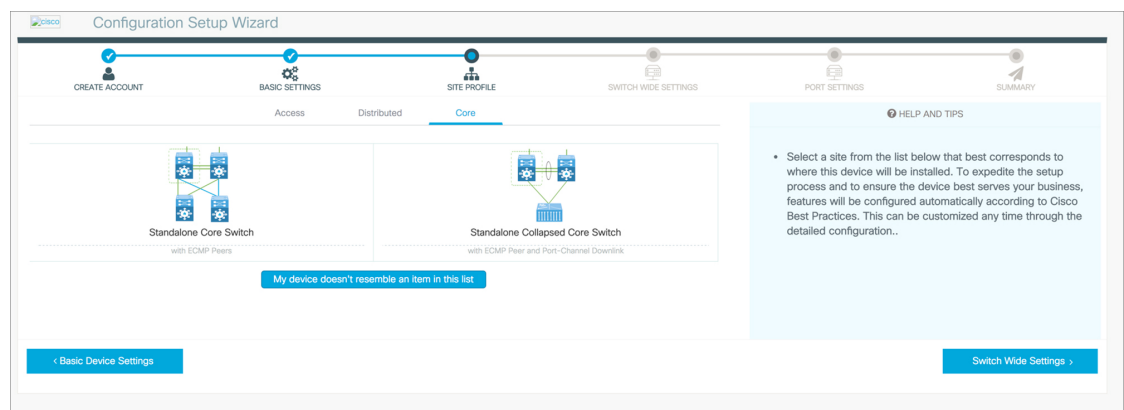


表 2: 各サイト プロファイル (コアスイッチ) と共に読み込まれるデフォルト設定

設定	スタンドアロンコアスイッチ (ECMP ピア)	スタンドアロンコラスプト コアスイッチ (ECMP ピアとポ ートチャンネルダウンリンク)
ホスト名	クイック セットアップの一部 として指定したホスト名また はデバイス名	クイック セットアップの一部 として指定したホスト名また はデバイス名
UDLD	イネーブル	イネーブル
エラー ディセーブル回復	リカバリ モードを自動に設定	リカバリ モードを自動に設定
ポートチャンネルロードバラン ス	送信元/宛先 IP	送信元/宛先 IP
SSH	バージョン 2	バージョン 2

設定	スタンドアロンコアスイッチ (ECMP ピア)	スタンドアロンコアスプロトコア スイッチ (ECMP ピアとポート チャンネル ダウンリンク)
SCP	イネーブル	イネーブル
スイッチへの VTY アクセス	イネーブル	イネーブル
Mitigate Address Spoofing	Strict モードにおけるユニキャスト RPF (uRPF)	Strict モードにおけるユニキャスト RPF (uRPF)
サービス タイムスタンプ	イネーブル	イネーブル
管理インターフェイス	クイック セットアップに基づいて管理ポートに設定されたレイヤ 3 設定	クイック セットアップに基づいて管理ポートに設定されたレイヤ 3 設定
QoS ポリシー	定義されたディストリビューション/コア用 QoS ポリシー	定義されたディストリビューション/コア用 QoS ポリシー
アップリンク インターフェイス	選択されたアップリンクポートは MAN/WAN デバイスに接続	選択されたアップリンクポートは MAN/WAN デバイスに接続
ダウンリンク インターフェイス	アクセス スイッチへのダウンリンク接続	ディストリビューション スイッチへのダウンリンク接続
クロスコネク ト インターフェイス	選択されたポートは他のコアスイッチに接続	選択されたポートは他のコアスイッチに接続

図 14 : [Site Profile] > [Core Switches]



VLAN の設定

- ステップ 1** [VLAN Configuration] セクションでは、データ VLAN と音声 VLAN の両方を設定できます。データ VLAN の名前を入力します。
- ステップ 2** データ VLAN を設定するには、[Data VLAN] チェック ボックスがオンになっていることを確認し、VLAN の名前を入力して、VLAN ID を割り当てます。複数の VLAN を作成する場合は、VLAN の範囲のみを指定します。
- ステップ 3** 音声 VLAN を設定するには、[Voice VLAN] チェック ボックスがオンになっていることを確認し、VLAN の名前を入力して、VLAN ID を割り当てます。複数の VLAN を作成する場合は、VLAN 範囲を指定します。

STP の設定

- ステップ 1** RPVST はデバイスでデフォルトの STP モードです。[STP Mode] ドロップ ダウン リストでこれを PVST に変更できます。
- ステップ 2** ブリッジプライオリティ番号をデフォルト値 32768 から変更するには、[Bridge Priority] を [Yes] に変更し、ドロップ ダウン リストからプライオリティ番号を選択します。

図 15: VLAN と STP の設定

The screenshot displays the Cisco Configuration Setup Wizard interface. At the top, a progress bar shows the following steps: CREATE ACCOUNT (completed), BASIC SETTINGS (completed), SITE PROFILE (completed), SWITCH WIDE SETTINGS (current step), PORT SETTINGS, and SUMMARY. The main content area is divided into three sections: VLAN Configuration, STP Configuration, and General Configuration. In the VLAN Configuration section, there are three checkboxes: Data VLAN (unchecked), Voice VLAN (unchecked), and Management VLSwitch Wide Settings (unchecked). The STP Configuration section includes a dropdown menu for STP Mode set to RPVST, a checked checkbox for Bridge Priority, and a dropdown menu for Bridge Priority Number set to 32768. The General Configuration section is currently empty. On the right side, there is a 'HELP AND TIPS' panel with a blue header and a light blue background. It contains a bullet point explaining that a data VLAN is used for user-generated traffic and that voice VLAN enhances VoIP service. Below this, it defines STP as a protocol to prevent bridge loops and mentions Syslog Client configuration. At the bottom of the wizard, there are two navigation buttons: '< Site Profile' and 'Port Settings >'. The Cisco logo is visible in the top left corner of the wizard window.

DHCP、NTP、DNS、SNMP の設定

- ステップ 1** [Domain Details] セクションに、非修飾ホスト名を完成させるためにソフトウェアで使用されるドメイン名を入力します。
- ステップ 2** DNS サーバーを識別する IP アドレスを入力してください。このサーバーは、デバイスでの名前とアドレスの解決に使用されます。
- ステップ 3** [Server Details] セクションに、DHCP クライアントで使用可能にする DNS サーバーの IP アドレスを入力します。
- ステップ 4** [Syslog Server] フィールドに、syslog メッセージの送信先となるサーバーの IP アドレスを入力します。
- ステップ 5** 正しい時刻、日付、およびタイムゾーンでデバイスが設定されるようにするには、デバイスの時間の同期相手となる NTP サーバーの IP アドレスを入力します。
- ステップ 6** [Management Details] セクションに、SNMP サーバーを識別する IP アドレスを入力します。デバイスでは SNMPv1、SNMPv2、および SNMPv3 がサポートされています。
- ステップ 7** SNMP プロトコルへのアクセスを許可する [SNMP community] 文字列を指定します。

図 16: DHCP、NTP、DNS、SNMP の設定

次のタスク

ポートを設定します。

ポート設定

- ステップ 1** 前の手順で選択したサイトプロファイル（画面左側に表示）に基づいて、以下のオプションの中から [Port Role] を選択します。

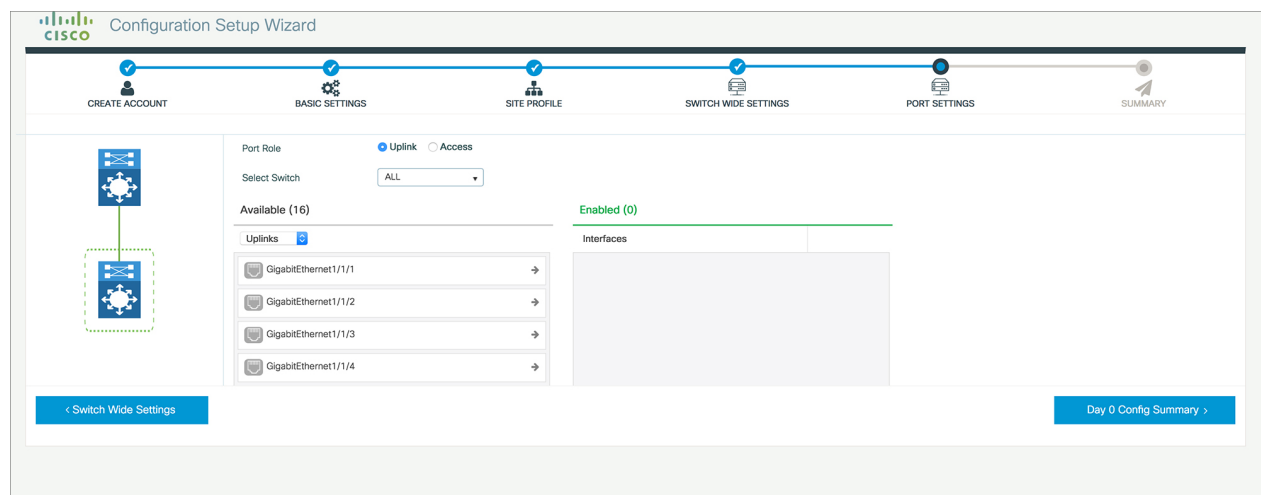
- [Uplink]：ネットワークのコア方向にあるデバイスに接続します。

- [Downlink] : ネットワーク トポロジ内で下流にあるデバイスに接続します。
- [Access] : VLAN 未対応のゲスト デバイスに接続します。

ステップ 2 [Select Switch] ドロップダウン リストからオプションを選択します。

ステップ 3 有効化する方法に応じて [Available] インターフェイス リストから選択し、[Enabled] リストを開きます。

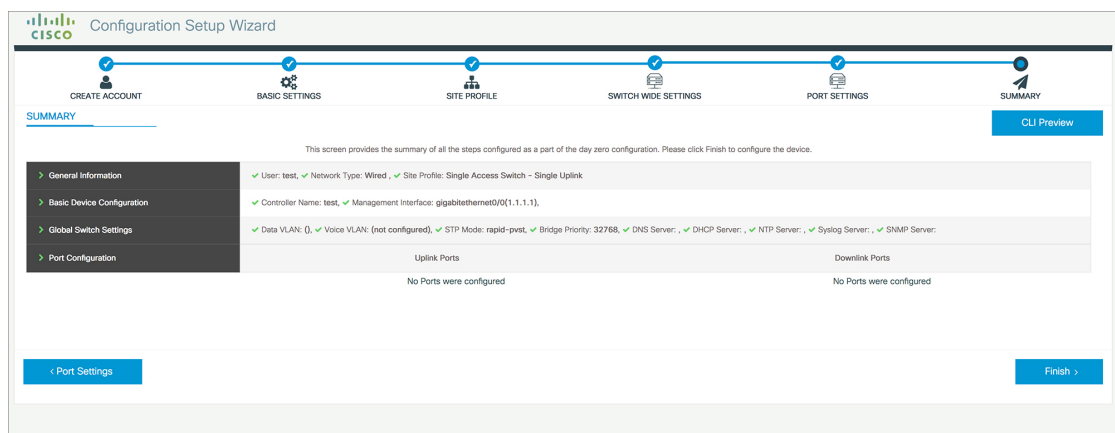
図 17: ポート設定



次のタスク

- [Day 0 Config Summary] をクリックして設定を確認します。
- [Finish] をクリックします。

図 18: Day 0 Config Summary



VTY 回線の設定

Telnet または SSH を経由してデバイスに接続する場合は、仮想端末回線または仮想テレタイプ (VTY) が使用されます。VTY 回線の数は、リモートによるデバイスへの同時アクセス数の最大値に一致します。デバイスに十分な数の VTY 回線が設定されていない場合、ユーザーが WebUI に接続する際に問題が発生することがあります。VTY 回線のデフォルト値は 0 ~ 15 です。デバイスでは、最大 99 の同時セッションが可能です。

ステップ 1 WebUI から [Administration] > [Device] に移動し、[General] ページを選択します。

ステップ 2 [VTY Line] フィールドに、設定する VTY 回線の数に応じて 0 ~ **xx** を入力します。

図 19: VTY 回線の設定

Administration > Device	
General	IP Routing <input type="checkbox"/> DISABLED
FTP/SFTP/TFTP	Host Name* ⓘ <input type="text" value="SW-9200"/>
Bluetooth	Banner <input type="text"/>
	Management Interface <input type="text" value="GigabitEthernet0/0"/>
	IP Address* ⓘ <input type="text"/>
	Subnet Mask* <input type="text"/>
	System MTU(Bytes) ⓘ <input type="text" value="1500"/>
	VTY Line ⓘ <input type="text" value="0-30"/> View VTY options
	VTY Transport Mode <input type="text" value="Select a value"/>